

# 平成29年度 学校評価シート（湯沢翔北高等学校）

目指す学校像	まごころと思いやりの心を大切にし、新たなものを創り出す意欲にあふれ、自らの力でたくましく生き抜く人間を育てる学校
--------	--

重点目標	1 規範意識の醸成 2 授業力の向上と学習習慣の確立 3 キャリア教育の充実と進路指導の工夫改善 4 専攻科の運営と本科との連携
------	---

達成度	A	ほぼ達成
	B	概ね達成
	C	変化の兆し
	D	不十分

出席者	学校関係者	8名
	教職員	5名

年度		学校自己評価					平成29年度評価（2月16日現在）	
番号	現状と課題	具体的な目標	目標達成のための方策	具体的な取組状況	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	生徒会を中心とした学校行事への取り組みや活発な部活動は、豊かな人間性の育成につながっている。 一方、SNS上などで軽率な判断や相手への配慮の不足による問題が起きている。他者と豊かで良好な人間性を構築できるように、規範意識に富み、自ら正しく判断できる生徒を育成する必要がある。	① 基本的な生活習慣の確立と豊かな人間性や規範意識の向上 ② 自他を尊重し、自律的に行動する態度の涵養	ア 校門指導による挨拶・整容指導及び交通マナーの徹底 イ 教育活動全体を通じた規則遵守の徹底と規範意識の高揚 ウ 情報モラル指導の徹底と他者を思いやる豊かな心の育成による問題行動等の未然防止 エ 生徒会の各種活動を通じた良好な人間関係の構築	① PTA役員や生徒会が中心となって「フレッシュ翔北挨拶運動」を6月と9月に実施した。 ② 全校集会や学年集会の他、教育活動全体を通じていじめ防止や規範意識の向上を呼びかけた。 ③ 学校行事や朝の全校集会では生徒の主体的な運営と積極的な交流を促した。	① いじめ防止の基本方針に基づいて認知を積極的に行い、件数は4件で昨年度と同数であった。一方、新たな問題行動の発生が見られた。 ② 本校の提案で域内4校共同でH30「いじめ防止あさがおカレンダー」を作成した。 ③ 保護者アンケートでは「学校行事」が最も評価が高く、94%の肯定的評価をいただいた。「生徒指導」も次いで91%だった。	B	① 自己中心的な価値判断に基づく言動によって問題が発生しているため、他者との関わりやつながりを重視する規範意識を持たせる。 ② 地域貢献の依頼に応ずる機会が多いが、生徒主体の取組とするために企画段階から関わり、校内全体の活動として機能させたい。	
2	授業第一の共通認識の下、到達目標を意識した授業改善に組織的に取り組んでいる。 しかし、家庭学習時間が不足しており、基礎学力が身に付いていない生徒もいる。義務教育段階の学習内容の学び直しの取り組みや翔北生として身に付けるべき「翔北スタンダード」の策定を通して、更なる学力向上を図っていく必要がある。	① 基礎学力の定着と向上のための更なる授業力の向上 ② 主体的な学習習慣の確立	ア 研究授業や教員相互の授業参観（互見授業）の実施 イ 組織としての授業改善の推進 ウ 家庭学習時間の確保と予・復習の徹底	① 「家庭学習と授業の連携を意識した授業改善」を研修テーマとし、基礎学力の定着につながる取組を各教科で実践した。 ② 各教科で研修テーマを具体化する取組を決め、互見授業を行った。 ③ 週末や長期休業中の課題の事前事後指導を行ったり、家庭学習記録を提出させるなどして家庭学習に対する意識の向上を求めた。	① 組織として基礎学力の確実な定着を目指した授業改善に取り組み、教科ごとに課題を共有して全員が互見授業を行った。 ② 学習状況調査では「平日の授業以外の勉強時間が1時間未満」が1年生60%、2年生66%で、どちらも全県平均よりやや多かった。家庭学習の習慣が確立しているとは言えない。 ③ 課題は提出するものの、やらされ感の払拭が難しい。	C	① 研究授業や互見授業の機会を増やして計画的に実施し、教科を越えて生徒の実態を共有しながらの授業実践を推進する。 ② 学習状況調査の結果を分析し、基礎・基本の定着に向けた家庭学習の習慣化につながる授業づくりに努める。 ③ 生徒がより主体的に家庭学習に取り組めるように、進路活動との接点をより意識できる課題づくりをする。	
3	インターンシップなどの体験活動や、ボランティア活動、課題研究などを通して自己の生き方・在り方や地域社会とのつながりを考えるキャリア教育が実践されている。 生徒が、自己実現のために努力を重ねることができるように、保護者との連携を図り、早い時期から高い進路意識を持たせることが求められる。	① キャリア教育の充実による職業観・勤労観の育成 ② 進路情報の発信と家庭との連携強化による進路指導の充実	ア セルフプロデュースインターンシップの奨励 イ 生徒理解と保護者との連携を目指した保護者面談の実施 ウ 進路行事（ガイダンス、講話、学校訪問、企業調べ）の充実による早期からの進路意識の高揚	① セルフプロデュースインターンシップを企画し、生徒に紹介するとともに事業所へも協力を依頼した。 ② 1年部は個人面談、2、3年部は加えて保護者面談を実施し、状況の把握や情報の共有を図った。 ③ 1、2年生から湯沢市の企業見学に参加したり、大学の模擬講義を受けたりする機会を設けた。	① セルフプロデュースインターンシップをした生徒は5%程度であったが、従来のインターンシップも80%以上が第一希望の事業所で実施できた。 ② 企業見学には1年生118名、2年生47名が参加し、90%近くが「有意義だった」と答えた。大学模擬講義には11大学を招き、「理解できた」が85%であった。	B	① セルフプロデュースインターンシップについて事業所の理解を広げる必要がある。就職支援員との連携をより効果的なものにする在り方を考える。 ② 効果的な面談の時期を検討し、面談場所の確保と調整を行う。 ③ 大学模擬講義は実施時期を検討し、事前事後の指導や実施の準備を徹底する。	
4	専攻科入学者の確保は引き続き課題であり、本校専攻科について高校生だけでなく保護者や中高の教員に理解してもらう機会を充実させることが求められる。	① 中学生やその保護者、学校関係者に対する専攻科への理解促進と実績の一層のアピール ② 本科と専攻科との接続の一層の推進	ア 若年者ものづくり大会など各種競技会への出場と入賞 イ オープンキャンパス等への中高教員の参加促進 ウ 本科・専攻科の5年間一環の工業教育の確立	① 若年者ものづくり大会旋盤職種の上位入賞と技能五輪旋盤職種への出場を目指して技能向上に努めた。 ② 夏と秋のオープンキャンパスの実施と、湯沢雄勝地域の企業博覧会へのブース参加をしてPR活動をした。 ③ 専攻科入学予定者への旋盤・機械検査の技能検定補習を実施した。	① 平成30年度入試では両科とも定員の7割の入学予定者を得ることができた。 ② 全国若年者ものづくり大会では敢闘賞を受賞したが、技能五輪は全国大会に行けなかった。 ③ 介護福祉士国家試験はこれまで4年連続全員合格であり、今年度も取組状況から全員合格が期待できる。 ④ 2回のオープンキャンパスには合わせて26名の参加があった。また、湯沢地区の中学校長による授業参観の機会を持つことができた。	B	① 若年者ものづくり大会での全国入賞や技能五輪での全国大会出場を目指す。 ② 介護福祉士の国家試験で引き続き全員合格を目指す。 ③ 専攻科教員が講師となって、工業科教員の研修会を実施し、他校工業科教員への理解を広める。	

学校関係者評価	実施日 平成30年2月22日
学校関係者評価と意見等	
・いじめを早期発見し組織として対応していることはよい。いじめがゼロになるということはないはず。いじめの問題で、教員自身が心を病むことのないように自らの精神面にも気を配って指導に当たってほしい。 ・学校だけで規範意識は育たない。家庭での教育も大切だと思う。 ・基本的な生活習慣が身に付いていないと人間関係作りも勉強も身に付かない。こつこつ言うしかない。	
・保護者アンケートによれば、保護者の中には「もっと勉強を」という人もいれば、「勉強より部活を」という人もいる。 ・学力向上につなげるためには、生徒・先生・保護者が同じ方向を向くことが大切。保護者にも学習指導についての学校の方針をもっと伝えるといい。 ・自己評価は「C」となっているが、先生方は悩みながらもよくやってくれている。「B」でもいいのではないかな。	
・企業の側からすると、インターンシップの受入は生徒からの申込みだけで正式なものかどうか分からない。学校からの事前連絡は必要だ。 ・商工会議所を通じて翔北の取組を企業へお願いすることもできるのではないかな。 ・勉強するには目標が必要であり、大学模擬講義はそのためのいい機会になる。 ・保護者アンケートでは、進路指導には好意的な意見が多かった。「B」ではなく「A」でもいいのではないかな。	
・生産技術科は全国大会でいい成績を残したり、高度な技能を身に付けさせたりと、学生募集につながり成果を上げている。 ・介護は労働条件が厳しく、強い思いを持って働きたいという人が少ない。これからはたいへんになるのではないかな。	